

ミコアイサ (カモ科) 全長 42センチ

オスは全身が白く、眼の周りを黒で丸く縁取った模様から、パンダガモの愛称で呼ばれています。日本には冬鳥として渡ってきますが数は多くありません。



私がパンダガモです。

3月中旬、市内の沼地でハクチョウと仲良く採餌中のミコアイサが見つかりました。小形のカモ類ですが、白いオスは遠目でもよく目立ちます。アップで見ると、パンダによく似ているので人気があるのも窺えます。



メスは地味な色合いで判別が難しく、オスと一緒にいるのでミコアイサと分ります。



コハクチョウと比べると、かなり小さく見えます。

漢字で「巫女秋沙」と表記されます。白装束を身にまとった神前に仕える巫女に見立ててこの名が付いたようです。

「あいさ」は「秋去り」からの転、つまりこの鳥がくると秋が去り冬になるという意味。(東京書籍・大橋弘一著・鳥の名前より)

3月は冬鳥が北の繁殖地に向う渡りの季節です。
餌を食べ、十分に体力を蓄えてからの出発となります。



メスを囲んでアピールしているのだろうか。



マガモよりも小さめです。

コハクチョウが次々と沼地に降り立ちました。小形のミコアイサは、コハクチョウの側で遠慮がちに餌を探しています。潜水が得意で頻繁に水中に潜り込むので、撮影には苦労します。この地でのミコアイサの滞在期間は長くはありません。



立ち上がって羽ばたきです。



首を伸ばして何かを警戒しています。

翌日、僅かな気温の緩みを感じとり、北の繁殖地へと向って飛び立ちました。愛嬌のある姿からバードウォッチャーの人気者も、今季の見納めです。